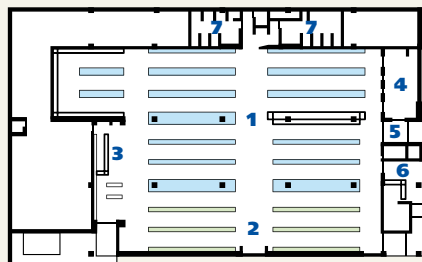


●平面図



- 1 パチンココーナー
- 2 パチスロコーナー
- 3 景品カウンター
- 4 レストコーナー
- 5 カフェコーナー
- 6 軽食コーナー
- 7 トイレ



業界初の玉計数機。キャスターや脱着可能なハンドル(取手)の付いた玉箱は、持ち上げずに計数機にはめ込むだけ。スタッフの労務軽減に効果大

DATA

●店舗概要
 [所在地]
 青森市港町2-10-23
 [オープン]
 2011年2月16日
 [事業主体]
 (有)ジャムフレンドクラブ青森
 [敷地面積]
 13,235㎡
 [規模・構造]
 鉄骨造・平屋
 [延床面積]
 2,164.60㎡
 [設計]
 (株)田村設計
 [施工]
 (株)経商事
 [遊技機台数]
 パチンコ552台、
 パチスロ184台
 [付帯設備]
 飲食スペース20席
 [駐車場台数]
 550台

【営業時間】
 8時30分～23時
 【従業員数】
 70人
 ●設備内容
 [玉補給装置]
 (株)京楽
 [玉計数機]
 グローリーナスカ(株)
 [メダル自動補給装置]
 (株)オーイズミ
 [台間メダル貸機]
 グローリーナスカ(株)
 [メダル計数機]
 グローリーナスカ(株)
 [景品管理システム]
 グローリーナスカ(株)
 [景品払出機]
 (株)日商物産
 [会員管理システム]
 グローリーナスカ(株)
 [貯玉・貯メダルシステム]
 グローリーナスカ(株)
 [照明]
 (株)遠藤照明

女性客に評判の広々としたトイレスペース。
 各個室には洗面システムも完備



舗装された駐車場の下に地下水を流すことで、融雪効果を発揮する「エコRシステム」を導入



レストコーナーには、テレビやマンガ本を多数用意

設計者の視点



（株）田村設計
 取締役東京所長
服部高宏氏

近年は、パチンコホールに限らず「環境・ECO」をテーマとした施設開発が潮流となっていますが、パチンコホール(または商業施設)としての役割・機能を備えながら、いかに「環境・ECO」といった要素を必然的

かつ効率的に盛り込んでいくかが大切です。時代が求めるニーズに的確に応えながらも、ときには立ち止まり、ブームに踊らされることなく検証しながら本物を提供していくことを心がけています。一步先を進むデザインもあれば、普遍的な継続性から新しい価値が創造することでもできるのです。その意味で「ジャムフレンドクラブ青森店」は、施設側との二人三脚でホールづくりに取り組み、新しいパチンコホールの形を提言できたのではないかと考えています。(談)

また同店の特筆すべき点として、従業員・スタッフが70人と多いことである。「清掃やコピーサービスなどを外部委託せず、自らの手で行なうことによって、ホールに、お客さまに愛情を注ぐことでサビ

「ECO」思いやり」という意識がスタッフに芽生えたことは、大きな財産になりましたと坂本氏は話す。ジャムフレンドグループでは、同店で培った環境・ECO対策のノウハウを、今後は同社既存店にフィードバックさせていく考えだ。

「青い森」のコンセプトのもと、「年間150tのCO2削減」(既存店舗比)を目標に掲げる同店では、さ

ス向上につなげてほしいと思っています。地域に愛される企業(ホール)になるためには、地元からの人材雇用も大きなポイントです(坂本氏)。

さらに、「パチンコホールが取り組めるECO対策とは何か。いまから自分たちに何ができるか」をスタッフ間で連日話し合うことで、ECOに対する意識が向上したのはもちろん、スタッフのサービスに取り組み姿勢やサービスの質的向上にも大きな役割を果たしたという。

「青い森」のコンセプトのもと、「年間150tのCO2削減」(既存店舗比)を目標に掲げる同店では、さ

また同店の特筆すべき点として、従業員・スタッフが70人と多いことである。「清掃やコピーサービスなどを外部委託せず、自らの手で行なうことによって、ホールに、お客さまに愛情を注ぐことでサビ

風力発電 地下水・排気熱利用 オールLED

ジャムフレンドクラブ 青森店

地域密着型の環境・ECOホールが青森市にオープン



ランドマークとしても機能する風力発電機。電気自動車の電力を供給



LED照明によりライトアップされた外観



「青い森」のコンセプトのもと、店舗内には緑がバランスよく配されている。排気熱は融雪にも活用される

青森県内初の全館100%LED照明を採用。補給システムは、省エネ対応の「ボールワックスシステム」を導入





（福岡県）
パチンコ・パチスロ・ゲームセンター
の経営革新

低収益時代の パチンコホール 経営革新

